

資料 13. 事業所のごみ減量ワークショップ結果概要

1 目的

事業系ごみの減量に向けてどのようなことができるか、アイデアを抽出する。

2 実施概要

対象：市内事業所（27名）

日時：平成27年2月4日（水曜日）18：00～20：30

3 プログラム

時間	内容
18：00～18：05	1. 開会挨拶、開催主旨の説明
18：05～18：45	2. 情報共有 ①事業系ごみの概要、鎌倉市のごみの現状など（15分） ②事業系ごみの減量・リサイクル取組み事例（25分）
18：45～18：50	（休憩）
18：50～20：25	3. ワークショップ テーマ：お店や事業所から出るごみを減らすには、どんなことができるでしょうか？ ①グループワーク（75分） <ul style="list-style-type: none">・ ある程度同業種でグループに分かれ、ごみ減量についての課題やその原因、理由をふりかえる・ 課題に対する解決策を検討 ②グループ発表（20分）
20：25～20：30	4. ふりかえりシート記入、閉会



4 ワークショップから得られた意見（抜粋）

＜分別意識（分別ができていない）＞	
困っていること、できていないこと（課題）	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ごみの種類を把握できていない職員がいる。 ・分別意識の不足。 ・分別が正しくできていない。 ・通常業務に追われ分別する時間が足りない。 ・構内の場所によって分別に差がある。（社員） ・施設がけっこう広いのでごみ箱が近くにない。 ・職員のごみに対する意識が低い。 ・ごみの分別が周知されない。（市外の職員も多にいる） ・分別方法がわからない。 ・認知障害などで分別できない。（患者さん） 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭系ごみと事業系ごみの分類の違い。 ・他市から出勤する者もいる為、各市の意識で捨てている。 ・個々の意識が不足。（ごみ捨てに対する） ・分別方法、種類の区別が難しい。 ・忙しい（めんどう）。分からないことばかり。 ・夜勤者などは他人の目があまりないのでごみを置きっぱなしにする。 ・コスト意識が低い。 ・分別の種類が多すぎる。 ・分別内容の表示が大まかすぎて分けづらい。
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・分別表を作って配る。 ・ごみ箱の色分け。 ・重さを計って意識付けする。 ・職員のコスト意識を変える。 ・分別方法をイラストで説明。 ・スタッフ全員に周知。ごみ減量のアイデアを出してもらう。それを実践する。 ・めんどうくさがらず、きちんと分別する。 ・勉強会をくりかえし行う。 ・表示内容の細分化、その他工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政よっての差をなくす。 ・ポスターやチラシで意識を高める。 ・実際のごみで分別方法を周知する。 ・ごみ屋による分別表の作成。 ・ごみ箱を分別毎に用意。 ・職員用の掲示板を利用する。（お知らせなど）
＜紙おむつの減量＞	
困っていること、できていないこと（課題）	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> ・紙オムツの量が多い。 ・紙オムツを減らせない。 ・排泄物は必ず出る。オムツ、パット類。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の意識。心配で多めに使用している。 ・入居者の重度化。 ・衛生面のため使いすてにしないといけない。 ・高齢者施設のため、オムツ、パットは生活するのに必要。
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・排泄の知識、技術の向上。 ・安易にオムツに頼らない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オムツはずしの推進。 ・オムツ業者で適切なオムツの使い方の勉強をする。（パット減少）

＜紙ごみの減量、分別＞	
困っていること、できていないこと（課題）	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ムダなコピーによる用紙量の増加。コピーに対する意識の低さ。 ・記録物が多く、紙の量が減らない。 ・個人情報の書類が多いので、普通にごみとして出せない。 ・シュレッダーのごみが多い。 ・不要になった会議資料が意外に多い。 ・紙で保管する物が多く保管場所がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コピー紙の削減、コストカットへの意識の低さ。 ・電子化への抵抗がある。周知徹底ができていない。 ・個人情報や紙ベースで記録を残す必要がある。 ・記録が多いため。 ・委員会や会議の回数が増加。 ・介護関係の書類が多い。 ・送りつけのFAX、ダイレクトメールが多い。 ・機密情報、個人情報が多い。

<ul style="list-style-type: none"> データ処理するが紙にも残すため紙が必要。(スタッフの一部、事務) 紙の混入。紙パック、サランラップの芯。 紙ごみの分別が徹底できない。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の紙がないと不安。 紙に印刷して回覧し、サインするため。 紙は燃やすごみだと思われる。(資源物)
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み
<ul style="list-style-type: none"> 電子化の推進。 監査の簡素化。(紙での記録を少なくする) 事業所内の情報共有はP Cで行う。 コピー機の性能アップ。(F A Xの処理を簡素化) コピーの裏紙利用。場所を決めておいておく。(コピー機のそば) 両面コピーにする。 グループウェアやメーリングリストの導入。 朝礼やミーティングの実施。各自必ずメモをとる! 紙の分別とリサイクルの実践。 	<ul style="list-style-type: none"> 市役所からペーパーレス。(貴重な資源) 電子カルテ化を補助金対象としてください。 監査のO A化。(市) P C端末の値段が安くなれば。 うすい紙にして紙の重さをへらす。 紙ではなく共有のP C (HDDにて) 記録を閲覧する。 コピー機の便利な使い方を教えてもらう。(コピー業者)
<プラスチックの減量>	
困っていること、できていないこと (課題)	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> 廃プラが多い。(菓子袋 etc) プラの混入。 食品、パック等の材料のつつみ方、入れ物が何重も有り、パック、フィルム2重、3重となっている事が多い。 洗剤類のボトル。食事、施設より出る。 	<ul style="list-style-type: none"> 製造業、販売業の業者の対応不足 (過剰包装)。 プラも燃やすごみだと思われる場合が多い。 流通の便利さを優先させるため。
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み
<ul style="list-style-type: none"> 簡易包装 	<ul style="list-style-type: none"> 分別しやすい包装の商品を出して欲しい。 コンビニ弁当のごみは各自家に持ち帰ってもらう。
<生ごみの減量>	
困っていること、できていないこと (課題)	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> 料理の食べ残し。 水切りの徹底が出来ない。 食べ残し。特にソース (オイル) 類。 以前は養豚業者に生ごみを処理してもらっていたが、廃業した。 	<ul style="list-style-type: none"> やり方が分からない。 生ごみの水分が多いのを知らない。 生ごみの水切りがしっかり出来ない。(時間がない) 料理の量が少ないとクレームになる。 コース料理全体の量、お客様によってかわる。 利用者から選択食の希望がある。 生ごみ処理機等を活用しても出来た肥料をどうすればいいのか。 材料で使えない部分が多く出る。(皮、へタ) 食事 (食材) のアレルギーや好き嫌いがある事によって食材が多くなる。 ご利用者様の体調により、食事量の変化がある。 生ごみは臭いがあるのですぐごみ置き場へ持って行ってしまう。
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み

<ul style="list-style-type: none"> ・メニュー内容の工夫。(客層により) ・生ごみ処理機導入の検討。 ・材料の仕入れ時に皮をむいてもらっておく。ムダなものは除いたものを仕入れてもらう。 ・食材業者の受注対応。(前日の発注可等) ・栄養士の残菜チェック。 ・冷凍食材をうまく使う。 ・入居者への個別適正量の確認。 ・厨房業者に余分な食材、包装を少なくするように協力してもらう。 ・調理の生ごみの水切りを時間かけてもやる！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・料理を美味しくする。 ・社内で生ごみ処理機導入の検討。 ・生ごみ処理機導入の補助金を出してもらう。(事業者用に) ・安くておいしい鎌倉市セントラルキッチン給食センターをつくる。 ・生ごみ処理機導入、購入用の補助金の金額を上げてほしい。
---	--

<ダンボールの減量>	
困っていること、できていないこと(課題)	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運送時のダンボールが多い。 ・ 購入物、納品物のダンボールが多すぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱がないと荷物がつぶれるから。
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・ ある事業者はダンボールでなくプラスチックケースで届く。 	—

<その他>	
困っていること、できていないこと(課題)	原因・理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 空きカン、ペットボトルのごみが多く、中身を捨てないでごみを出している。 ・ 外来のごみ(包装、書類、冊子 etc)が多い。 ・ 各駅のごみが全く減っていない。 ・ 樹木(剪定枝)の排出量が減っていない。 ・ お客様の備品で使いすてが多い。 ・ 季節によって感染性ごみが多く出る。 ・ 退去された方の家電製品、家具製品。 ・ 雨天時に、傘を入れるビニール袋が大量に使われ、ごみになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持ち込み可であるため。(菓子 etc) ・ 使いすてではない場合、衛生上の問題でお客様からクレームがある。 ・ 単身世帯は引き取り手が無い。 ・ 来客者が多い。 ・ 入居者が退居の際に家具や布団を置いて行ってしまう。
どうすればごみを減らせるか	実現に向けた取組み
<ul style="list-style-type: none"> ・ 来客者用にごみ問題に取り組んでいることを掲示する。 ・ ごみ箱の撤去。 ・ サービスの少サービス化。(料金を安くする為の代替を用意する) ・ 植木剪定、落ち葉は土に埋める！！ ・ リサイクル出来る製品を利用する。 ・ 使用可能な部品の分解。 ・ 他の入居者に使っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修会 ・ ごみ収集業者の見直しと協力を依頼する。→勉強会。量を減らしてコスト削減。 ・ よりシンプルでより分かりやすい分別表の作成。 ・ 事業者 スタッフに分別の手順を作ったものを配布。 ・ 時間帯によってごみ箱を撤去。